02-02-01 赤ちゃんの便秘①（“綿棒浣腸・こより浣腸”）

“綿棒浣腸”の起源は、多分、1960（昭和 35）年乳幼児健診開始（＝育児指導：育児と育児学の稿参照）の時からか？と考えています。筆者が小児科医としてスタートした 1969（昭和 44）年（＝“育児指導”開始から 9 年後）、新人指導担当の先輩より「最近、赤ちゃんの便秘に“綿棒浣腸”を指導している様ですが、原本は“こより浣腸”です。昔は普通であった事が、時代が変わって難しくなった為ですかね？」と言い、“こより浣腸”について下記のように説明してくれた。

“和紙”を撚（よ）って“こより“を作り、”こより“の先を“ツバキ油“に浸し、油の付いた“こより“を肛門よりゆっくり挿入。そのままおむつを付けて、抱っこ等で様子を見る。しばらくすると、赤ちゃんは息み（＝息を止めて腹に力を入れる）始め、おむつを開けてみると、”こより“と一緒に便が出ている。

しかし、昔と違い、

① “こより”の材料である“和紙”が手元にない（＝今、普通に使用している”紙“は “西洋紙”です）。

② “こより”を撚（よ）る技術が伝わっていない。

（＝『“こより”は、髪を結（ゆ）わく時に使うので、その撚り方は“女の嗜（たしな＝心得）み”として教えられていた。』：この話は、筆者の母親の話です）。

③ “ツバキ油”は、女性が髪につけて使用するため、どこの家庭にもあったが、今はない。

“こより浣腸”の『代わり』をと考えた結果が“綿棒浣腸”の指導となったのではないかと推察しています。

“こより浣腸”には

『技術を必要としない』・『危険がない』・『便が出るまで長時間・連続的に刺激してくれる』・『子どもに苦痛を与えない』等、先人の知恵がしっかり詰まっています。

02-02-02 赤ちゃんの便秘②

昔から赤ちゃんの便秘対策として“こより浣腸”があったように新生児期から乳児期に変わる頃（生後1～2 月）に便の回数が急に少なくなる子が時々います。「1 日 5～6 回便が出ていた子が、急に 3 日も便が出ていない。」あるいは「1 週間も出ない」等と相談される事が有ります。しかし、赤ちゃんは、特に変わった様子もなく、ケロッとしている事が多いようです。この様に急に来るのが“赤ちゃんの便秘”です。

肛門は特別な病気を除いて、普段は便が漏（も）れないようにしっかりと閉じています。便が肛門の手前まで来ると“便の刺激”で肛門が緩（ゆる）み、便が出そうになります。この時が“便意（ウンチをしたい）を感じて息張る”時です。 “便意”が続くうちは次々と便を出し、全部出し終わるとスッキリもとの機嫌に戻ります。このリズムが崩れたのが“赤ちゃんの便秘”です。そこで、肛門の手前を刺激して「便が来たよ！」と騙（だま）してこのリズムのスタートを切らせるのが“こより浣腸”だったり、“綿棒浣腸”なのです。

“綿棒浣腸”は、小指（爪を切っておいてください）にワセリン・オリーブ油等を塗って肛門を軽く突っ突くようにマッサージ（1 cmぐらい入っても大丈夫です）して肛門が柔らかくなり開いたように感じたら、ワセリン等をつけた綿棒の頭の部分のすぐ下のあたりを親指と人差指でしっかり押さえながら（入れすぎ防止）頭が見えなくなる程度まで入れ（軸が固いのであまり奥まで入れると危険です）、小さな円を描くような気持ちで軽く何度も回してみて下さい。しばらく続けて赤ちゃんが“息張る”様なら“効果あり”です。赤ちゃんが嫌がり暴れた時や、なかなか “息張って”くれない時は、次の機会を狙ってください。

“こより浣腸”の場合、“こより”は事務用品店やインターネットで入手可能ですが、いずれも 100 本単位の様です。それを 5～6 cmの長さに切って、先端 1～2 cmの所まで油をつけ、全体の半分位まで肛門からゆっくり挿入。残りの部分は外に出したまま、おむつをつけて様子を見て下さい。赤ちゃんのカラダや呼吸等の動きに合わせて肛門の手前をやさしく“便意”が出るまで“刺激”してくれます。

効果なく、飲みも悪く不機嫌だったり、体重の増えの悪い子は、早めの “小児科医受診”を勧めます。